

保護者も喜ぶデジタル化働き方改革

各学校で働き方改革に知恵を出し合い、教職員のワーク・ライフ・バランスの確立のため尽力いただいていることに感謝しています。

さて、文部科学省の働き方改革事例集では全国の学校園での様々な取組が紹介されています。https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/hatarakikata/mext_00008.html その中でも注目されているのが「デジタル化」です。新潟市でも多くの学校が取り組んでいます。その中から2つの取組を紹介します。

取組1 ★欠席連絡をデジタル化★

新潟市では電話対応の取組が定着し、保護者からの朝の電話は早朝にかかってくることはなくなりました。しかし、その分一定時間に集中してかかってくることになり、電話が鳴りやまない学校もあると聞いています。また、保護者の方からも学校に電話がかかりにくいといった声も聞こえます。そんな中、欠席連絡をデジタル化することにより、保護者も喜ぶ働き方改革ができた取組を紹介します。



★五十嵐中学校の取組★



朝の学活で確認できます

入力フォームは、選択制になっており、保護者の入力の負担を軽減しています。最後には担任へ伝えたいことを記入する欄があり、記録としてもしっかり残すことができます。

Google フォームを利用して、保護者からの連絡をデジタル化しました。欠席連絡や遅刻の連絡等は、ipad を使って、すべての教職員がどの場所でも確認することができます。また保護者も電話対応の時間に関係なくいつでも入力が可能です。さらに、一覧で出力できたり、記録として保存したりすることも可能です。五十嵐中学校では、電話対応も受け付けていますが、電話での欠席連絡は激減したそうです。

体温 発熱の場合は入力してください。

37.0℃～37.4℃

37.5℃～37.9℃

38.0℃～38.4℃

38.5℃～38.9℃

39.0℃以上

備考 その他の理由や担任等にお伝えしたいことについてはこちらにご記入ください。

記述式テキスト (短文回答)

取組2★配付文書をデジタル化★

毎日の配付文書の印刷、そして学活であわただしい中での実際の配付。枚数を数えたり、欠席者の配付をどうするか悩んだり大変です。このような課題を配付文書のデジタル化で働き方改革ができた取組を紹介します。

★新津第三小学校の取組★

保護者から登録してもらっているメールアドレスやアプリに、配付文書を添付して送信します。保護者には確実に文書が届くのに加え、デジタルで残ることにより保護者も紙がたまらず、いつでも検索して閲覧できるので喜ばれています。

送信までの手順は次のようにしています。

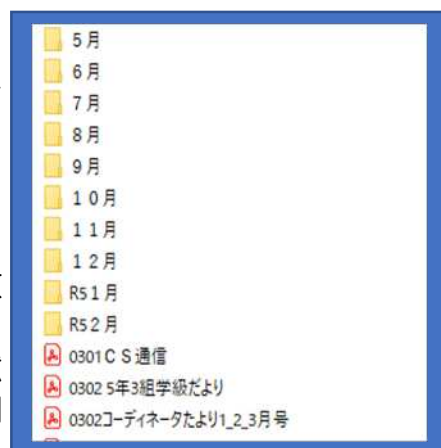
① 送りたい文書の格納

担任等は送りたい文書をPDFで共有フォルダに格納します。ファイル名は「送ってほしい月日4桁+たより名」で統一します。

② 担当者が、右のフォルダから送信します。

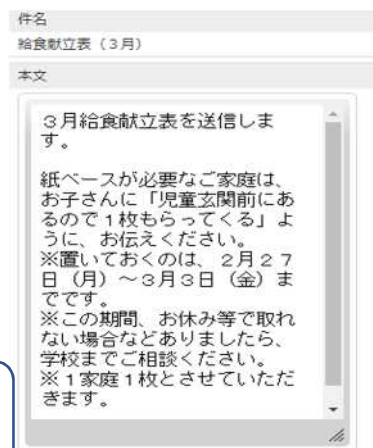
印刷が不要で、送信も担当者がまとめて行うことで、教職員の負担は軽減されたそうです。

また、一部の保護者から紙のほうがよい文書（給食の献立等）の要望があったそうです。そこで玄関前に一定期間文書を置くことで解決したそうです。



紙の文書をもっていく様子から、給食献立は家庭数の2割、月予定が1割程度の利用だったことから、その部数を印刷しているそうです。

メールで紙ベースの配付も案内します。



★教職員の声★



・最初は欠席連絡の送信をしてもらったり、自分でそれを確認したりすることに不安でしたが、慣れるととても便利です。自分の学級の生徒だけ並べることもできるし、過去の欠席の様子もすぐにわかるので助かります。

・配付文書は、紙の節約にもなって助かっています。送ってほしい月日のファイル名にすることで、送り忘れがなくなるだけでなく、保護者に送った文書が日付ごとに並んで残るので確認できてとても便利です。

この2校以外にも、多くの学校で取り組んでいただいているようです。やり方や課題等を共有しながら、より便利に活用していきたいものです。